

# 『一生懸命』幻の新座市議会報告第152弾!



たかむらともや

2017年10月31日発行

## 認定せず!!

平成28年度の一般会計決算に対して、我が「市民と語る会」は認定せずという結論を出しました。

経常収支比率が2年連続95%以上という恐ろしい財政状態の中で、100億以上かかる大型の区画整理事業3つを新座駅周辺に同時展開し、新庁舎の建設まで行った年度ですから、反対するのは当たり前です。

選挙では多くの候補者が待機児童ゼロを訴えましたが、その問題が全く解決できなかった予算・決算に対しては賛成、認定してガッカリ…。

そのしわ寄せは市の職員の労働環境にも。

新座市の職員の1人あたりの人口は199人で県内40市で40番目、最低の労働環境です。1位の秩父市の90人、2位のさいたか市の93人と比べると2倍以上の負担です。しかも、新座市の場合その44%が非正規雇用なのです。それでは市民のみなさんへのサービスが低下するのは当たり前です。

「町内会に入っていない市民も税金を払っているのだから広報は全戸配布にすべきだ!」と何度も訴えて、28年の5月からは市の広報が全戸配布されるようになりましたが市長は町内会への補助金を1世帯180円から300円にしまいました。

反対の理由は他にもあります。「財政難」という理由で小中学校の先生達から「駐車料金」を徴収し続けていることです。

公立の小中学校の先生達は県の職員であって、市の職員ではありません。

新座市は小中学校の先生達の中で「行きたくない市」ワースト〇位に入る程人気がないのですが、その原因の1つに駐車料金の徴収があります。他の市で働いている先生達と最初から年間18000円の差があるのですから、新座で頑張っている先生達は本当に気の毒です。

その一方で市長・議長・教育長の公用車には年間1295万円もかけて贅沢三昧。市民の税金だということが分かってないんじゃないんだろうか…そんなことを思いながら、反対討論をしました。



10月の川掃除は29日(日)の予定です。川の中から見える景色はなかなかです。川に入ると魚や鳥たちと出会えて、なかなかいいものですよ。

## たかやんのプロフィール



昭和52年3月、青函連絡船に乗り新座五中に向かう。何故か3年4組の担任となる。潰れなかったのは常に子ども達が一緒にいてくれたから。五中2年目から「一生懸命」という学級通信を書き始める。五中では100号を

超える程度だったが、次の六中から毎日書くことに。年間244弾ペースが11年続いた。

写真は清瀬駅北口で出会った素敵な青年りょうさん。父新太郎はビルマ戦線で陸軍小隊長として戦い、英軍の捕虜となるが生きて日本に戻る。その後、厚生省から労働省に入り、茨城と富山の労働基準局長となる。父は労働基準法に煩かった。同じ魚津中学出身の角栄作(自民党法務大臣)の熱烈な応援団だった父だが、二人とも生きていたら安倍晋三の「働き方改革」は許せん!と怒った筈。

好きな言葉は「一生懸命」「経世済民」「明眸皓齒」好きな政治家は田中角栄、ホセ・ムヒカ。

大っ嫌いなのは弱いものいじめをする、いつ見ても人相の悪い政治家達。反吐がでるわ!!

たかやんの応援団 で 検索

たかやんの連絡先 自宅 042-456-8869 携帯 090-6497-5737  
mail:takayanchan@jcom.home.ne.jp 〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

## 町内会と補助金

28年度決算資料から見てくるものの中に町内会と補助金の問題があります。

この一生懸命で何度も書いているように、昨年の5月までは市の広報は全戸配布ではありませんでした。町内会が1部30円という信じられない金額で、基本的に町内会員だけに配布していたのです。（現在シルバー人材センターによる全戸配布では1部11円）

町内会の中には町内会に加入していない世帯にも配布していたところがあったようですが、その配布数が町内会の世帯数より数百部も多いところもあり、気になっていました。

前市長には「町内会に入っていないなくても、市に税金を払っているのだから、誰でも広報を見る権利がある筈だ！」と議会で何度も訴え、やっと全戸配布になったのです。

そして「何年間も世帯数が同じ町内会があるが市役所は正確な加入世帯数を正確に把握しているのか」という質問に対して、「申請された世帯数に対して補助金を出していた」という答弁に大いに疑問を感じました。そういうやり取りの後、

28年度決算で執行部から出された資料がこの資料です。

28年度に世帯数が激減した町内会

1. 野火止四丁目上町内会 1162→748=414の減
2. 栗原三丁目町内会 700→457=243の減
3. 野寺町内会 2730→2494=236の減
4. 大和田一・二丁目 1143→658=185の減
5. 栗原六丁目町内会 1000→819=181の減
6. 東北一丁目町内会 880→709=171の減
7. 栄五丁目町内会 900→750=150の減
8. 片山町内会 2200→2067=133の減
9. 栗原一丁目町内会 1180→1054=126の減
10. 馬場二丁目町内会 600→478=122の減
11. 東北二丁目町内会 1500→1387=113の減
12. 野火止上五町内会 1044→941=103の減
13. 道場町内会 680→578=102の減
14. 野火止上六町内会 530→433=97の減
15. 栗原四丁目町内会 700→605=95の減
16. 栗原五丁目町内会 1300→1206=94の減

\*この資料を見ると、野火止四丁目上町内会の減少が突出しているように見えますが、他にも栗原地区（1丁目～6丁目）では全体で725世帯も町内会を脱会したことになっています。

町内会の補助金に対して、チェックする機能がないのです。議員の中には町内会長をしている方もいます。どこの世界でも自分で自分をチェックするのは難しいのです。町内会長が地域の代表として市議会議員になるのはありだと思いますが、議員になったら、町内会長は他の人に譲るべきではないでしょうか。

## 希望の党に希望はあるか

野党第一党の民進党が崩壊しました。「都民ファースト」の小池百合子に飲まれてしまったのです。前原代表の責任は極めて重いと思います。

一方、都民ファーストからは二人の都議が離党しました。小池百合子の独裁に我慢ができなかったのでしょうか。民主主義が大前提の中で生きてる政治家が、自分の党会派の中での発言を制約し、一握りの人間だけで物事を決定していく。それは民主主義ではなく独裁です。

安倍晋三の退陣を多くの人が望んでいることは確かですが、それに代わる「独裁」を国民は望んでいる訳ではありません。

「希望の党」の小池百合子の会見を見ました。消費税の増税凍結は当然です。誰が見ても、このデフレ社会の中で消費税を上げることは論外なのです。アベノミクスに代わるユリノミクスは多い疑問です。大失敗したアベノミクスと似たような名前を付けるセンスを疑います。

原発ゼロを目指すのなら、再稼働そのものを停止すべきです。憲法九条をどうしても改正したいようですが、米軍に追従しなければならなくなるような改正でしょうから、完全にアウトです。それが証拠に普天間基地の移設を着実に進めると言っています。

もし、憲法九条がなかったら、自衛隊は朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争などにも参加していたことになります。流石の米軍もあの憲法を認めてしまった以上、自衛隊を戦闘に参加させることは出来なかったのです。その憲法九条を改正しようとしているのが、自民・維新・希望なのですから、希望の党に希望はありません。

## 市民と野党連合

共産党を中心とする市民と野党連合には希望を感じています。旧民進党よりも共産党の方が柔軟だと感じる人は多いのではないのでしょうか。

希望の党の前原候補は「安倍政権を倒すことが第一の使命だ」と言っておきながら、共産党との共闘はできない、と矛盾したことを言っています。

安倍政権を倒すことが目的だとしたら、共産党と組むのは当たり前です。頭が固いのは希望の党の方で、実は柔らかいのが共産党に見えてきました。

前原候補は「二大政党制を目指す」と言っていますが、国民にとって大切なのはアメリカのような二大政党制ではありません。国民生活が豊かになることです。アメリカのような二大政党制になっても生活が豊かにならなければ意味はないのです。